

学 会 記 事

◎第8回理事会(昭.34.1.21) 出席者:米田会長,篠原,本間両副会長,高野,中安,藤村,渡辺,国分,小野,野田の各理事。議事:1) 12月中の行事その他報告,2) 第9回応力連合講演会運営委員会よりの特別講演講師を推薦方依頼について,3) 第3回材料試験連合講演会の運営委員に国分正胤,八十島義之助両氏を推薦,4) 土木工学論文抄録第6集委員会構成について協議,5) 日本ドクメンテーション協会より依頼のUDC管理委員会の委員に井口昌平氏を推薦,6) 夏季講習会課題について次回までに案を持ち寄ること,7) コンクリート常置委員会の委員に多田安夫(土研),赤塚雄三(運研)両氏を追加委嘱,8) 学術会議中央選挙管理会委員の委員交代について,9) 第2回地震会議組織委員会準備費についての申入れについて,10) 12月中の会員入退会承認。

◎支部長懇談会(昭.34.1.21) 出席者:榎本(北海道),佐藤(東北),梶谷(中部),石原(関西),近藤(中国四国),渡辺(西部)の各支部長,渡辺中部支部幹事長,米田会長,篠原,本間両副会長,高野,中安,渡辺,国分,小野,野田の各理事。学会の事業に関し支部長と理事との懇談を主旨としての会合を催した。主なる話題は次のとおりであった。1) 各地区の事業計画および予算をなるべく年度始めに決定してもらうこと,支部長および役員改選期をなるべく各地方揃うようにしてもらうことを要望した,2) 建設省地方建設局の管轄がえにともない学会支部の設置について研究すること,3) 土木賞の授賞規程内容について研究すること,4) 第5期学術会議会員選挙に備え,諸準備について各地区に指示すること,5) その他。

◎各種委員会

1. 第8回会誌編集委員会(昭.34.1.22) 出席者:田原,井口正副委員長,伊東,奥村,樋口,南部(代西原),栗津(代浅川),寺島(代玉木),岡崎,尾形,田村,後藤(東北)の各委員,深谷幹事。議事:1) 投稿原稿の審査報告および新規受付原稿の審査委員の決定,2) 依頼原稿の状況,3) 学会誌投稿規定について,4) 44巻3号登載予定原稿を次のとおり予定した。

八十島義之助:交通シンポジウム序論,宮地栄次郎:日本電波塔の架設工事について,小椋正:松島炭田開発にともなう池島における人工港築造について,成瀬勝武:国際溶接会議および欧米紀行,岩佐義朗訳:水理講演会講演要旨(イリノイ大学 Chow 博士),耐震工学委員会:耐震工学委員会の現況報告。

2. 臨時会誌編集委員会(昭.34.1.13) 出席者:田原委員長,三上,奥村,海保,伊東,南,大西,樋口,田村,都,栗津,尾形,南部,尾崎の各委員,後藤(東北),小西(関西)両支部委員,深谷幹事。議事:1) 土木賞委員会へ提出する学会誌題目一覧表の調査について,2) その他。

3. 第8回会誌編集小委員会(昭.34.1.13) 出席者:田原委員長,伊東,海保,三上の各委員,深谷幹事。議事:1) 44巻2号編集につき最終打合せをした,2) 追加資料として“越路橋拡幅工事(高橋敏明)”を登載に決定,3) 44巻1号口絵写真として,嵐山橋,四谷地下鉄工事,新数寄屋橋工事を決定,4) その他。

4. 臨時会誌編集委員会(昭.34.1.27) 出席者:田原委員長,海保,南部,三上,大西,諫山(代佐藤),都,尾形,高橋,尾崎,寺島,伊東,小西(関西代成岡)の各委員,藤原氏。議事:1) 土木賞委員会へ提出する論文につき学会誌編集委員会としての推せん文の作成,2) その他。

4. 第8回文献調査委員会(昭.34.1.9) 出席者:井口理事,樋口委員長,伊能,岩間,小池,佐藤,津野,土屋,新谷,野口,福沢,日野,丸山の各委員,矢島幹事。議事:1) UDC分類の採用について井口理事を招き簡単な講義を聞き,今後の方針を協議した,2) 1月号登載の文献抄録および目録欄の校正刷につき体裁と統一を計った,3) 2月号登載の文献抄録および文献目録の内定,4) カード記入について再確認した,5) 委員会のあり方について協議,6) その他。

5. 第1回コンクリート常置委員会(昭.34.1.14) 出席者:吉田委員長,国分副委員長。

○無筋コンクリート部門

岡部(代赤塚),杉木,樋口,丸安,山田,小林,土岐,塚山,山崎,村田の各委員

○鉄筋コンクリート部門

後藤,深谷,多田の各委員

○コンクリート舗装部門

伊東,浅井の両委員

○ダムコンクリート部門

河原,佐々木,関,太斉,伊藤,永倉,西沢,堀,山村の各委員。議事:1) 国分副委員長の挨拶があり,

この委員会の主旨およびコンクリート標準示方書と同解説の歴史の変遷について説明,今後の委員会の運営方針を審議,2) 無筋コンクリートの1条~26条水セメント比(2)まで(26条1を除く)を審議,3) 委員会世話役として下記委員を選定,

無筋コンクリート 山崎寛司 委員

鉄筋コンクリート 小寺重郎 委員

コンクリート舗装 岩間 滋 委員

ダムコンクリート 永倉 正 委員

4) フライアッシュ小委員会の経過報告,5) 各部門の研究項目を打合せ次期委員会までに考えておくよう依頼,6) 関,山崎両委員の帰朝歓迎会を行った。

第2回コンクリート常置委員会(昭.34.1.28) 出席者:国分副委員長,樋口,山崎,村田,堀,土岐,小林,多田(代中村),岩間,藤井,永倉,西沢,山村,赤塚,塚山,の各委員。議事:1) コンクリート示方書解説に関する説明を国分副委員長および樋口委員より第4章26条~第5章37条まで行つた,2) 研究分担に関する打合せ,(a) 研究項目の内容につき,国分副委員長より説

明を行つた、(b) 研究分担の決定は、示方書解説を終了したのちとする。

6. 第4回論文集編集各部委員会(昭.34.1.19)出席者: 国分編集部長, 友永委員長, 徳平幹事。第1部会 高田部会長, 平嶋, 樋口, 大地, 松崎(代), 田島の各委員。第2部会 竹内, 嶋, 松田の各委員。第3部会 後藤部会長, 竹下, 山口, 西亀の各委員。第4部会 友永部会長, 細井, 黒河内, 渡部の各委員。議事: 1) 各部会ごとに審査報告および新規受付原稿の審査委員の決定, 2) 論文集投稿規定について協議, 3) 土木賞下調べについて, 4) その他。

7. 第4回論文集部会長会および土木賞打合せ(昭.34.1.29)出席者: 国分編集部長, 友永委員長, 高田, 後藤, 田島, 嶋, 三木, 渡部, 竹内, 伊東, 大島, 松田, 大地, 栗津の各委員, 徳平幹事。議事: 1) 各部会報告, 2) 論文集 61号登載論文の再確認, 3) 論文集 61号・別冊発行について, 4) 土木賞委員会へ提出する推せん文の作成, 5) その他。

8. 海外連絡委員会は 1959 年度国際会議派遣代表候補者を次のとおり選定し, 1月15日学術会議第5部長に推薦した。

- 1) 国際道路協会々議 9月 Rio de Janero, Brazil 八十島義之助(国費)
- 2) 国際水理研究協会々議 9月 Montreal, Canada. 大坪喜久太郎(国費), 安芸 皎一(自費), 在米中参加 米屋 秀三, 岡田 篤也, 合 田 健, 田中 茂, 田中 清
- 3) 国際溶接学会年次大会 6月 ユーゴスラヴィヤ Opatija 安宅 勝(国費)
- 4) 国際地下都市計画委員会第3回会議 8月 Scandinavia 八十島義之助(自費)
- 5) 国際橋梁・構造会議 25回理事会 8月 Edingburgh 樋浦 大三(自費)

9. 第1回土木賞委員会(昭.34.1.20)出席者: 内海, 太田尾, 小田, 小野, 神谷, 小西, 種谷, 平井, 星莖, 松井, 最上, 米屋, 樋浦, 田中, 内林(代), 米田, 篠原, 国分, 田原, 友永の各委員。議事: 1) 委員長選挙: 内海清温委員を委員長に決定, 2) 論文審査方針: a. 候補論文の下調べを会誌編集および論文集編集両委員会に依頼する, b. 両委員会は選定した候補論文のおのの内容説明書を作成し2月末日までに各委員に配布するようにする, 3) 土木賞授与方針: 大体例年の方法で進む方針だが, 結論の出なかつた点は次回に協議する, 4) その他, 次回は3月10日とする。

10. 第23回耐震工学委員会(昭.34.1.26)出席者: 沼田委員長, 岡本, 神谷, 小西(代畑中), 田原, 寺島, 友永, 星莖, 最上, 石井, 秋草の各委員, 久保幹事, 川村光雄氏。報告事項: 1) 第2回世界地震会議の準備に

ついて a. 1st Circular を約 2000 通各国に発送した, 2nd Circular は論文について近く発送する予定, b. 資金に関する後援会は目下結成準備中, 2) 論文募集についての公告は会誌3月号に登載の予定で, 国内は4月末日までとし, 応募論文は4月中に当委員会で審査する。協議事項: 1) 国鉄よりの委託研究内定の「基礎の経済性を考えた耐震設計法の研究」は国鉄側が具体的になつた上で協議する, 2) インドの University of Rokee の耐震工学についての Symposium には(期日2月11~13日)電力技術研究所, 九州大学より研究報告が出された, 3) その他, 次回は3月2日とする。

支 部 だ よ り

1. 関西支部

(1) 第12回幹事会(昭.34.1.20)大阪府立大手前会館にて。出席者: 石原支部長, 近藤幹事長, 石田, 伊藤, 松尾, 八木の各幹事。

(2) 海外事情講演会(昭.34.1.20)大阪府立大手前会館にて。

題目および講師

- 1) 米国における最近の水理学の進歩について 京都大学助教授 工博 岩垣 雄一
 - 2) 国際大ダム会議に出席して 京都大学助教授 工博 丹羽 義次
 - 3) 欧米の上水道事情について 神戸市水道局技術部長 小林 利春
 - 4) スタビロメーターの活用について 滋賀県土木部長 辻川 秀夫
- 参加者 75名。

(3) 会員懇親会(昭.34.1.20)大阪府立大手前会館にて。参加者約90名で楽しい一夕を過ごした。

関西支部 会員懇親会



(4) 第2回技術講座 現在までに聴講者690余名の参加があり, 目下盛大に進行中である。

2. 中国四国支部

第10回支部学術講演会および見学会報告(昭.33.11.26~28)広島県庁6階にて。

講演会: 近藤支部長挨拶

祝辞 広島県知事

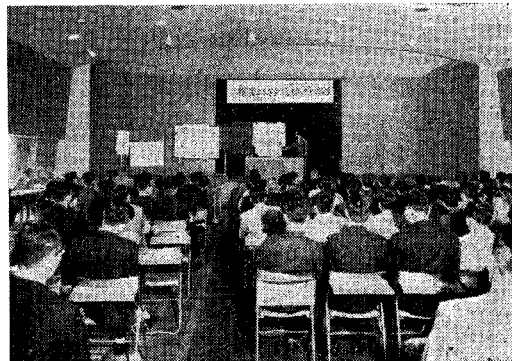
広島市長

大原 博夫

渡辺 忠雄

建設省中国建設局長 深谷 克海氏
 一般講演：
 ダムコンクリート用としての高炉セメントの考察
 山口大学工学部土木工学教室 加賀美一二三
 同 ○長谷川 博
 中国地建における軟弱地盤の処理工法の二、三
 建設省中国地建企画室 山根 孟
 横桁をもつ、弾性固定支持バリによつて二辺を
 支持された矩形板の近似解法
 徳島大学工学部土木工学教室 星 治雄
 同 ○児島 弘行
 佐々並川ダム工事について
 中国電力佐々並川建設所 関 卓郎
 水制の水理現象について（第1報）
 山口大学工学部土木工学教室 椿 東一郎
 開物揚場工事について
 建設省西大寺工事々務所○下宮 直
 同 加藤 高治
 同 中国地建河川計画課 伊達 克己
 ゆるい斜面への波の遡上に関する実験的考察
 徳島大学工学部土木工学教室 田中 要三
 大森川ダム洪水吐バケットの水利実験について
 四国電力建設部土木課 高岡 武
 ポンプしゆんせつ作業の効率に関する諸問題
 山口大学工学部土木工学教室 小川 元
 鹿野川ダムの基礎岩盤処理について
 建設省鹿野川ダム工事々務所 徳田 秀雄
 骨材の粒度とコンクリートのウォーカーピッチ
 に関する研究
 徳島大学工学部土木工学教室 福井 英吉
 佐々並川ダムのコンクリートについて
 中国電力佐々並川建設所 北村 竜一
 コンクリートの圧縮ヒズミ エネルギーについ
 ての考察
 山口大学工学部土木工学教室 加賀美一二三
 扉門の縦方向の鉄筋量について
 建設省中国地建河川計画課 伊達 克己
 水叩き工法に関する実験的研究
 徳島大学工学部土木工学教室○福田 俊治
 技研興業KK 岩佐 信幸
 長尺レールの輸送並びに連続縦御作業
 広島鉄道管理局施設部保線課 馬越 道也
 格子桁構造の極限荷重について
 山口大学工学部土木工学教室 米沢 博
 併設軌道を有する橋床構造の軽量化に関する
 実験的研究
 建設省太田川工事々務所 重兼 暢夫
 同 瀬良 茂
 同 ○坂本 治夫
 断面が変化する主桁を有する格子桁の一解法
 徳島大学工学部土木工学教室 星 治雄
 同 ○楠本 博之

鉄筋コンクリートバリの極限強さ設計における
 コンクリートの応力分布について
 広島大学工学部土木工学教室 河内 清彦
 軟弱な地山中のトンネル地圧の実験的研究
 徳島大学工学部土木工学教室 小田 英一
 粘性土質路床におけるアスファルト舗装の
 路床路盤工事の一工法
 建設省香川国道工事々務所 富山 勲
 Dywidag 方式PC橋について
 別子建設KK 中島 儀八
 特別講演：
 第6回国際ダム会議に出席して
 中国電力KK 近藤 正雄
 沖積層地盤における土質学的諸問題
 京都大学工学部土木工学教室 村山 朔郎
 映 画：ニーパルゲン橋架橋記録
 見学会：王泊ダム 参加者：300 余名
 中国四国支部 第10回支部学術講演会



3. 西部支部

1) 夏季講習会

日 時：8月25日 9時30分～17時
 会 場：大分県 由布院 山水館ホール
 講習題目および講師：
 (1)ダムにおける水理学的諸問題
 九州大学助教授 荒木 正夫
 (2)上椎葉以後のダムについて
 九州電力KK 直村 徳三
 (3)回流水路による関門海峡の模型実験
 運輸省第四港湾建設局
 小倉材料検査場長 野尻 徹郎
 (4)土質試験の実際工事への応用
 九州大学助教授 内田 一郎
 (5)長大橋の調査について（例を若戸橋）
 日本道路公団
 若戸橋工事々務所長 川崎偉志夫
 (6)水工学の二、三の問題
 熊本大学教授 藤芳 義男

2) 見学会

日 時：11月14日 10時30分～15時
 見学場所：観光船さく丸で洞海湾，三菱セメント黒

崎工場および八幡製鉄戸畑工場の繋船施設を見学

3) 研究発表会

日時：12月5日 10時～17時

会場：別府市不老町 不老仙三階ホール

発表題目および発表者：

- (1) 諸塚ダムのコンクリート配合について
九州大学 水野 高明
同 ○徳光 善治
九州電力KK 小野 匡美
- (2) 緩和曲線としての3次放物線
八女工業高校 塚本 正文
- (3) 普通河川と感潮河川の水利について
佐賀大学文理学部 高田 京一
- (4) 特性曲線法による斜面流出量算定の簡易化について
九州大学 上田年比古
- (5) 鋼管杭を採用した繋船棧橋工事について
八幡製鉄KK 坂田 隆雄
- (6) 現場実験による急斜面の土壌浸食について
(第一報)
宮崎大学工学部 久原 中吾
同 ○藤本 広
建設省宮崎工事事務所 高島
- (7) 若戸橋の施工計画概要
日本道路公団
若戸橋工事事務所 乙藤 憲一
- (8) 矩形沈殿池の整流壁に関する二、三の実験
九州大学 遠山 啓
- (9) 斜桁橋の Model Analysis について
熊本大学 吉村 虎蔵
九州地方建設局 坂梨 宏
同 村上 良丸
同 ○北村律太郎
- (10) 円形ハリよりなる構造物の解法について
(その一)
九州大学 山本 宏
- (11) ダム基礎岩盤の弾性係数について
九州電力KK ○村瀬 次男
同 ○富永 正臣
- (12) 川内臨海工業地帯造成にともなう経済効果の算定 一産業連関分析の一応用一
運輸省小倉材料検査場 福田 伸男
同 第四港湾建設局○小野川繁澄
- (13) フライアッシュを混入せるモルタルの浸食抵抗強度試験について
九州大学 荒木 正夫
- (14) 短期養生を条件とする砂の安定処理とその現地実験 (島原・雲仙間道路)
九州大学 ○山内 豊聡
日本道路公団 平松 勇
同 溜池 実衛
- (15) 八幡製鉄所の用水計画
八幡製鉄KK 内田駿一郎

◎関係学協会その他の報告

1. 国際大ダム会議日本国内委員会

「国際大ダム会議第6回大会出席報告講演会」(昭.34.1.16) 産経会館6階会場

講演題名・講師

大会報告

第6回大ダム大会に日本代表として出席して

永田 年
大会課題第20 関係論文と討論会 近藤 正雄
大会課題第21 関係論文と討論会, および
大ダム用コンクリート国際分科委員会議事

吉田徳次郎
大会課題第22 関係論文と討論会 河上 房義
大会課題第23 関係論文と討論会 関 慎吾

視察見学旅行報告 (スライドをもって説明)

St.Lawrence Sea-Way Project

小林 泰
U.S.A. テネシー河水系 小林健三郎
U.S.A. ミズリー河水系・デンバー地区
吉田 栄延
U.S.A. コロンビア河水系 篠原 清
欧州 永田 年, 刑部 秀利
原口 正一

備考：1. 国際大ダム会議第6回大会への日本代表団員は次のとおり。
永田 年, 吉田徳次郎, 刑部秀利, 河上房義, 小林健三郎, 小林 泰, 近藤正雄, 佐藤勇吉, 篠原 清, 関 慎吾, 高橋嘉一郎, 種谷 実, 西村二郎, 丹羽義次, 原口正一, 前田信治, 山崎寛司, 吉田栄延, 高瀬国雄(現地参加)の各氏。
2. 視察見学旅行報告において用いたスライドは, これら代表団員の撮影したものである。

2. 世界動力会議日本国内委員会

「世界動力会議カナダ部会報告講演会」(昭.34.1.28)
日本工業倶楽部4階第6会議室

演題および講師

1. 挨拶
世界動力会議日本国内委員会議長 安川第五郎
社団法人 日本動力協会々長
2. 世界動力会議カナダ部会に出席して
科学技術庁科学審議官 安芸 皎一
3. 水力発電における経済的動向
東京電力KK建設部 佐藤 勇吉
4. 火力発電(原子力を含む)における
経済的動向
東北電力KK社長室 若林 疆
5. 燃料(石炭・石油・ガス)生産における
経済的動向
帝国石油KK秋田鉱業所 藤山 久雄
6. 燃料の輸送および輸送部門における
エネルギーの利用
日本国有鉄道運輸局 荒井 誠一
7. 商工業におけるエネルギーの利用
昭和電工KK 岡田 泰三

3. 日本機械学会

3月以降開催の講演会, 講習, 見学会の予告

- | | | | |
|--------------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| 1. 関西支部 第204回講演会, 第34期総会 | 3月18日~20日 | 5. 機械力学講演会 | 6月 |
| 2. 東海支部第8期総会講演会 | 3月19日 | 6. 第114回講習会(精密測定実地講習) | 3月16日~19日 |
| 3. 新潟地方講演会 | 5月29日~30日 | 7. 九州支部総会・講習会・見学会 | 3月6日~7日 |
| 4. 内燃機関総合講演会 | 6月 | | |

COASTAL ENGINEERING IN JAPAN, Vol. 1, 1958 頒布について

わが国の海岸工学研究の業績を広く海外へ紹介することを目的として標記の英文図書を作りました。第1回より第5回にわたる海岸工学講演会の発表講演のうち、主な12編を選んで編集してあります。部数に制限がありますので希望者は至急御申込み願います。

体裁：B5判 148ページ、タイプライター・オフセット印刷、図表・写真多数

頒価：250円(送料は学会負担)入金次第お送り致します。

内容：(1) Y. MASHIMA: Study on the Typhoon Characteristics in respect of Wave Development and the Distribution of Longshore Current. (2) S. HAYAMI: Type of Breakers, Wave Steepness and Beach Slope. (3) HAYASHI & HATTORI: Pressure of the Breaker against a Vertical Wall. (4) SATO & KISHI: Experimental Study of Wave Run-up on Sea Wall and Shore Slope. (5) SHIMANO, HOMMA & HORIKAWA: Effect of a Jetty on Nearshore Currents. (6) HORIKAWA & SONU:

An Experimental Study on the Effect of Coastal Groins. (7) IWAGAKI & SAWARAGI: Experimental Study on the Equilibrium Slopes of Beaches and Sand Movement by Breaker. (8) Y. MASHIMA: Study on Littoral Drift and Longshore Current. (9) ISHIHARA, IWAGAKI & MURAKAMI: On the Investigation of Beach Erosion along the North Coast of Akashi Strait. (10) SHINOHARA, TSUBAKI, YOSHITAKA & AGEMORI: Sand Transport along a Model Study Beach by Wave Action. (11) FUKUSHIMA & MIZOGUCHI: Field Investigation of Suspended Littoral Drift. (12) T. KUBOO: Consideration by Fundamental Test of Jetty in River Mouth.

会 員 入 退 会 報 告 (昭.34.1.31 現在)

| | |
|--------|---------------------|
| 1. 入 会 | 70名(特2 1, 正51, 学18) |
| 2. 復 活 | 3名(正3) |
| 3. 退 会 | 58名(正47, 准11) |
| 4. 転 格 | 25名(准より正へ25) |

会 員 現 在 数 (昭.34.1.31 現在)

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|----|-------|
| 名誉員 | 賛助員 | 特1A | 特1B | 特1C | 特2級 | 特3級 | 正員 | 准員 | 学生員 | 増加 | 計 |
| 26 | 30 | 17 | 12 | 69 | 110 | 95 | 8969 | 4228 | 1076 | 15 | 14632 |

| | | | | |
|----|--------|----------------|------------|-----|
| 正員 | 林 恒太郎君 | 日本産業再建技術協会東北支部 | 昭和33年12月逝去 | 50才 |
| 正員 | 太 田 稔君 | 日本道路KK取締役社長 | 昭和31年4月逝去 | 68才 |

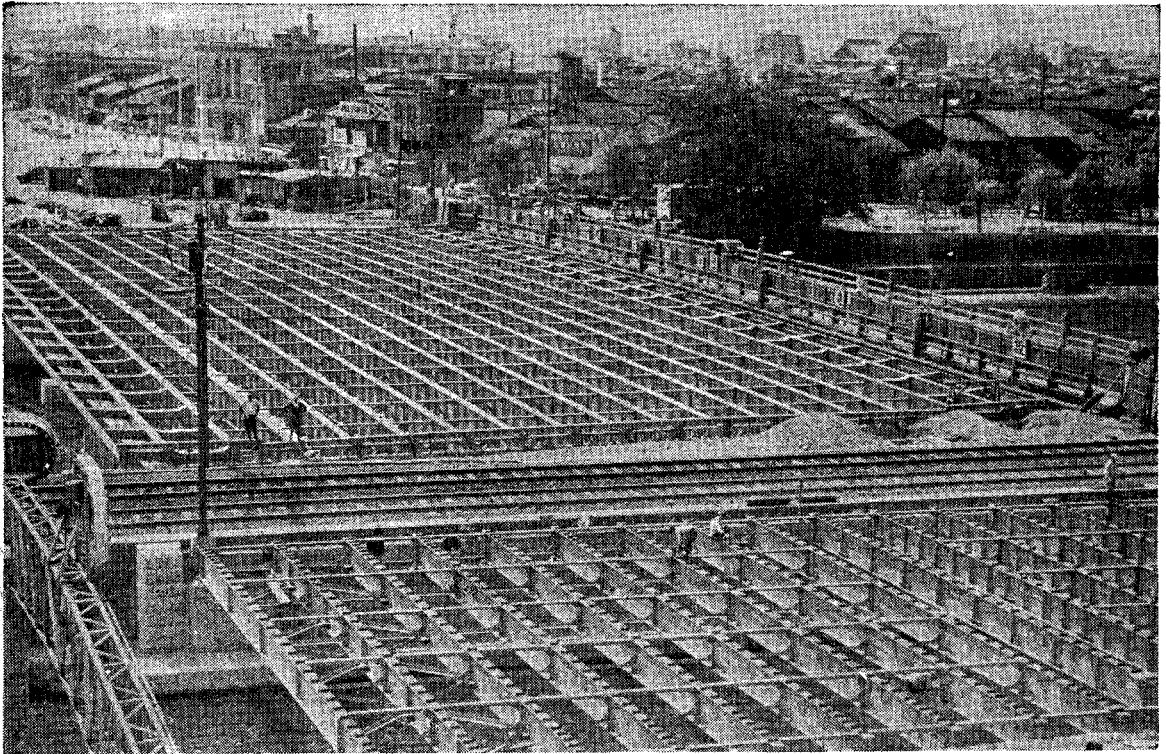
昭和34年2月10日印刷
印刷者 大沼正吉
編集者 園分正胤
定 価 100円

昭和34年2月15日発行
印刷所 株式会社 技報堂
発行所 社団法人 土木学会
振替 東京 16828 番

土木学会誌 第44巻 第2号
東京都港区赤坂溜池5番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
電話 (35) 5130・5138・5139 番

伝統を誇る 日立造船の橋梁!

日立造船は、橋梁・鉄骨・鉄塔・水圧鉄管・水門扉等鉄鋼構造物の設計・製作および据付工事の一貫作業を行っており、専門メーカーとして半世紀にわたる長い経験を有しております。橋梁については、多年の経験をもつ技術者ならびに多量の参考設計を擁しており、技術研究所における絶えざる試験・研究と相まって、確実なる設計・施工を行います。完備した設備により納期を確保することが可能です。



京都市役所 御注文
五条大橋並びに五条疏水橋（鋼桁架設状況）



創業1881年

日立造船株式会社

本社 大阪市北区中之島2丁目25 電話大阪(23)8051~9、8201~9
東京支社 東京都千代田区丸の内2(郵船ビル) 電話東京(28)5231~9
工場 桜島・築港(大阪市)、因島・向島(広島県)、神奈川(川崎市)